

2. 事業の目的と概要																							
(1) 上位目標	ミンダナオ島ピキット・マリダガオ河沿い地域において、紛争被害に遭った子どもたちの初中等教育環境を向上させ、草の根レベルでの平和を定着させること。																						
(2) 事業の必要性(背景)	<p>(イ) フィリピン共和国における開発ニーズ</p> <p>フィリピン政府は、“the Medium Term Philippine Development Plan (フィリピン中期開発計画：以下 MTPDP) 2004-2010” を策定し、(1)経済成長と雇用創出、(2)エネルギー、(3)社会正義とベーシックニーズ、(4)教育と若者への機会、(5)汚職対策、及び良い統治と5つの開発の柱を掲げてきた。</p> <p>一方、日本政府は、2008年「フィリピン国別援助計画」を発表し、その中で(1)雇用機会の創出に向けた持続的経済成長、(2)貧困層の自立支援と生活環境改善、(3)ミンダナオにおける平和と安定の3つを重点開発課題として掲げている。</p> <p>(ロ) 国レベルでの当事業の必要性</p> <p>フィリピン共和国の重点開発課題の1つに「ミンダナオ島の紛争」がある。ミンダナオ島では、現在まで続く政治的な武力衝突と地域レベルでの「暴力の文化」により、人々や地域の可能性は妨げられ、同国において貧困率、実質地域総生産(GRDP)、またその保健・医療環境、農業生産性、基礎的インフラ、教育インフラの全てにおいて同国の最低水準となっている。</p> <p>(ハ) 町レベルでの事業の必要性</p> <p>ミンダナオ島の紛争において、最も被害が大きかった地域の1つに同島中部に位置するコタバト州ピキット町がある。町の人口は約10万人で、多くはイスラム教徒であるマギンダナオが73%、多くはキリスト教徒であるセブアノが25%を占める。この地域はこれまで幾度となく紛争の激戦地となり、人々は避難と帰還を繰り返してきた。ミンダナオの紛争多発3地域の1つにIMT(国際停戦監視団)から指定もされている。</p> <p>紛争を経験してきた子どもたちの多くは、大切な人や財産を失い、心の傷を抱えている。多くは、なぜ政府・反政府軍の衝突が起こっているのか、氏同士の争いや地域での「暴力の文化」が蔓延しているのか知る術もなく、辛い過去を自身に納得させるために、「敵意」を抱いている。地域の平和と安定のために、地域に深く根付く「敵意」や「不信感」を取り除くことが求められている。</p> <p>また、武力衝突が落ち着いた現在、復学を望む子どもが増える</p>																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>教育達成率 (2007)</th> <th>ピキット</th> <th>マニラ (NCR)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>無就学経験</td> <td>19.2%</td> <td>3.7%</td> </tr> <tr> <td>幼稚園以下</td> <td>3.1%</td> <td>2.3%</td> </tr> <tr> <td>小学校以下</td> <td>46.8%</td> <td>22.3%</td> </tr> <tr> <td>中学校以下</td> <td>21.7%</td> <td>37.4%</td> </tr> <tr> <td>大学以上</td> <td>7.9%</td> <td>28.5%</td> </tr> <tr> <td>データなし</td> <td>1.4%</td> <td>2.4%</td> </tr> </tbody> </table>	教育達成率 (2007)	ピキット	マニラ (NCR)	無就学経験	19.2%	3.7%	幼稚園以下	3.1%	2.3%	小学校以下	46.8%	22.3%	中学校以下	21.7%	37.4%	大学以上	7.9%	28.5%	データなし	1.4%	2.4%	
教育達成率 (2007)	ピキット	マニラ (NCR)																					
無就学経験	19.2%	3.7%																					
幼稚園以下	3.1%	2.3%																					
小学校以下	46.8%	22.3%																					
中学校以下	21.7%	37.4%																					
大学以上	7.9%	28.5%																					
データなし	1.4%	2.4%																					

<p>(*1):R7:Barungis, Bulol, Bulod, Kabasalan, Talitay, Buliok, Bagoinged</p> <p>(*2):G7:Ginatilan, Nalapaan, Panicupan, Lagunde, Dalengaoen, Takepan, Kalakacan</p> <p>(*3):M7:Tinutulan, Balabak, Gototan, Nabundas, Balatikan, Balungis, Nunguan</p>	<p>一方、教育基盤の整備・復興は遅れており、現在も多くの子どもたちが教育の権利を剥奪されている。2007年の時点で、同市の就学経験のない人口は約19%、小学校以下で教育を終えているものも含めると約69%にもものぼる。これは、マニラ首都圏の約28%と比べても極めて高い。</p> <p>学校教育を受ける機会がなかった若者たちは、生計手段の選択肢が狭まり、生計を立てるために（政府・非政府軍として、又は私的軍や強盗集団として）武器を持つことが多い。また、地域の大人の間で広く認識されている「キリスト教徒対イスラム教徒」といった二項対立の解釈も、学校という視野を広める場が与えられなかった子どもは、より強まるケースが多い。地域において、「学校教育を受ける権利」の欠如は、平和への妨げとなっている。</p> <p>この現状に対してピキット町政府は、平和活動の推進や平和のための初中等教育環境の向上を目指しているが、その取り組みは十分とは言えない。</p> <p><u>(二) 村レベルでの事業の必要性</u></p> <p>このピキット町は、町の中心部から南部にある R7(*1)、北西部の G7(*2)、北東部の M7(*3)等のいくつかの地域に分けられる。R7では、申請団体や USAID 等により学校建設が行われ、国道に近い G7 では、多くの団体によって、平和活動が行われてきた。一方、町の中心地から離れたマリダガオ河流域の M7 と呼ばれている7つの村からなる地域では、長年外部からの介入は限られている。この地域は、同町人口の21%を占め、98%の人口がイスラム教徒マギンダナオ族である。</p> <p>幹線道路から離れたイスラム地域である M7 においては、平和活動はほとんど行われておらず、事実上ピキットにおいて「忘れられた地域」となっている。民族や宗教の異なる子どもや大人が共に心の傷を癒し、地域レベルで平和的な紛争解決に向け行動できる機会が求められている。</p> <p>また、この M7 の校舎は荒廃も著しい。ピキット町中心部から車で約20分にあるスルタン・メモリアル中学校（校長 Ms. Vincenta B. Molao、他フルタイム教師8名、ボランティア教師2名、合計11名）では、生徒数301人に対して教室数は5つのみ（うち2教室は改築の必要性がある）で、1教室あたりの生徒数平均は60.2人となっている。野外のステージで約50人が授業を受けており、教育資材を十分に活用するためのスペースも限られている。</p>
--	--

	<p>同地域周辺で日本政府によって実施されているマリトボク・マリダガオ灌漑事業の成果により、近年、地域住民の収入は向上している。その為、2009年度の入学生徒数は前年に比べ約13%も増えており、2015年度には生徒数は500人近くになると見込まれる。学校の生徒数が増加し、より教室数が不足する状況が生まれている。同灌漑事業の成果を早急に平和活動と結び付け、更に教育環境を整備することで、確実に地域の「平和」へ貢献することが求められている。</p>
<p>(3) 事業内容</p>	<p>活動内容</p> <p>ハード</p> <p>(イ) スルタン・メモリアル中学校での新築1棟6教室の建築 (ロ) 同中学校教室備品の整備 (椅子や机、黒板等)</p> <p>ソフト</p> <p>(ハ) 「平和の学校」(SOP:School of Peace) 準備活動 4地域における小中学生と地域リーダーが、平和の概念や、平和の学校について学ぶオリエンテーション。「平和の学校」研修を効果的に実施するための準備活動として実施する。</p> <p>(ニ) 「平和の学校」研修 バランガイティヌトゥラン内小中学校における平和教育活動。</p> <p>(ホ) 「ミンダナオ子ども議会」の開催 多文化多民族の子どもたちによる相互信頼醸成活動及びミンダナオの将来について話し合う場。</p> <p>活動地</p> <p>(イ) (ロ) (ニ) コタバト州ピキットティヌトゥラン及び校外 (ハ) コタバト州ピキット M7 の4地域 (ティヌトゥラン、バラティカン、ヌグアン、バラバック) 及び校外 (ホ) 南コタバト州ジェネラルサントス市</p> <p>中長期計画</p> <p>当事業は、3年計画の1年目に該当する。3年間をかけて、M7全域において、「平和の学校 (SOP:School Of Peace)」を広げ、平和教育モジュールを作成させるとともに、地域の教育施設を整えることによって、持続可能な草の根レベルでの平和定着とMDGsの達成に寄与する。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>教室や備品の維持管理は、管轄であるピキット北部教育省が行う。これに対し、MOOE (Maintenance and Other Operation Expenses) 予算措置、生徒数増加に見合った教師の増員を含む維持・管理に</p>

	<p>ついて正式に文書を交わす。平和活動は、教育省と協働しカリキュラムに加える予定である。当法人が、事業終了後最低 5 年間は使用状況のモニタリングを行う。</p>
<p>(5) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>(成果 1) スルタン・メモリアル中学校の約 300 名の子どもたちの教育環境が整えられている。(指標 1) 事業終了時、同校の生徒数が 300 人以上であり、且つ 1 教室あたりの生徒数平均が、50 人以下となっている。(同校在籍者リストにて確認)</p> <p>(成果 2) バランガイティヌトゥランにある小学校と中学校が、「平和の学校」宣言を行っている。(指標 2) 同校に置いて、宣言式が行われ、且つ教育省から「平和の学校」証明書が発行されている。(活動記録及び証明書の存在にて確認)</p> <p>(成果 3) 400 人以上が暴力に頼らない争いの回避方法を知っている。(指標 3) 研修終了時のアセスメントシートにおいて、400 人以上が暴力に頼らない争いの回避方法を回答している。(アセスメントシートにて確認)</p> <p>(成果 4) 30 名以上の子どもが自分たちの置かれている状況を分析、共有することができ、相互理解が促進されている。(指標 4) 30 名以上の子どもたちが、「ミンダナオ子ども議会」の中で自分たちの地域の状況を絵で描き、発表をすることができているとともに、研修終了時のアセスメントシートにおいて、他の民族の置かれている状況について、知識が増したと回答している。(活動記録とアセスメントシートにて確認)</p>